

# は ひ ふ へ 本光寺

ほんこうじ

## 第25号

令和4年1月発行

西暦 2022  
仏暦 2565  
祖暦 800  
皇暦 2682

尾藤住職より  
皆様。昨年は色々ありがとうございました。  
木魚のぼつくんは今回の号で成長しました。  
本光寺も成長し、日々精進してまいりますので、  
よろしくお願いたします。  
お身体にはくれぐれもご自愛ください。

合掌

### ご住職に

き

た

き

い

記者「以下：記」

皆さん、新年あけましておめでとうございます。昨年はコロナなどのさまざまな問題に私たちも直面した年であったと思います。本年もご住職にいろいろなことを教わりながら、一步一步進んでいきたいと思っています。本年もよろしくお願いたします。  
まずは、ご住職に質問です。昨年を振り返って一言お願いたします。



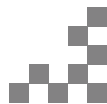
本光寺35世 尾藤宏明住職「以下：住」


住：皆さん、明けましておめでとうございます。記者さんもおっしゃっていましたが、昨年もコロナという言葉がキーワードになった一年であったと思います。本光寺もおととしから、いち早くコロナ対策を行い継続してまいりました。お寺では珍しい「キャッシュレス決済」を導入し、三密を避けるために、さまざまな対策をとってきました。

本光寺では、昨年度、従来の年間行事の復活をさせてきました。もちろんコロナ対策を十分対策したうえで実施させていただきました。皆さんがお寺（本光寺）を頼っていただいているという熱い気持ちに応えるために、私が先頭になって皆さんと一緒にコロナに打ち勝ち、年間行事を開催したことは、一つの成功であったと思います。また、毎朝7時より「朝参り会」をYouTubeで配信しておりますが、おかげさまで1周年になりました。日曜日の16時からの「夕参り会」でも、多数の皆さんに参加していただいております。

記：そうですね。私も何回か「朝参り会」や「夕参り会」に参加させていただきましたが、やはり私も本光寺を心のより所にしていきますね。ご住職はよく「原点回帰」という事を私に話していただきます。例えば、御首題のミニ写経の奉納や本堂に参詣する時は必ず数珠の着用をすとか、本堂の仏神様の挨拶には「伏拝（ふくはい）」を推奨していたりされています。もう少し、考え方をお伝えしていただきたいのですが。

住：何年も前にイスラム教の国のモスクに視察に行ったことがあります。イスラム教は戒律がかなり厳しいと聞いていましたが、仏教徒の私がモスクに見学で入るときでも、最低限のイスラム教の作法を行う必要があります、





服装などを着替えたりしました。では、日本ではどうでしょうか。本光寺ではどうでしょうか。本光寺も日本の各寺院と同じに、以前は本堂にお参りされるときには自由に参詣していただきましたが、宗教者として最低限のことは行っていかなくてはならないと思い、本堂に参詣する時は「数珠」の着用を義務化としました。当然「数珠」をお持ちにならない方も多いので、多数の色の「数珠」をお貸しできるようにしております。また昨今ひそかなブームになっている「御朱印」も日蓮宗独自の「御首題」とは区別していただくようにしています。御朱印は御朱印帳に、御首題は御首題帳に書かせていただいております。そもそも御朱印・御首題とは、昔、写経した証、つまり仏道修行した証としていただくものでした。やがて簡略化され、今では、お寺に参詣した証となっております。本光寺では、「原点回帰」の一環として、ミニ写経を奉納していただき、少しでも皆さんに御朱印・御首題の本来の意味を考えていただければと思っています。

記：御朱印がブームになった時には、スタンプラリーのようになった時期もあったように思います。さて、本年ですが、ご住職及び本光寺の新たな取り組みなどがありましたら教えてください。

住：やはり、その質問が来ますよね（苦笑）実は、まだ、何も浮かばないのが現状です（取材日令和三年十二月）私がやりたいと思っても、この社会情勢の中、果たしてやれるのかという問題があります。テレ詣をもっと行い、本光寺を知っていただきたい気持ちもあります。温故知新ではありませんが、昨年からは重きを置いている「原点回帰」を自分なりに充実させていくことが、本年の取り組みになるのではないかと思います。年間行事は、社会情勢の著しい変化がない限り、通常通りの開催をしたいと思っています。昨年も開

催時に思ったのですが、コロナ禍で皆さんの年間行事の参加の仕方が変わってきたのは、まぎれもない事実です。社会状況の変化に対応し、もっと皆さんとの結びつきを強くしていきたいと思っています。

記：そうですね。ご住職の考え方だけでなく、社会の変化に対応していくことなどが必要ですよ。テレ詣の話が出ましたので、私からもお聞きしたいと思います。テレ詣にご住職に質問の時間があります。皆さんの切実な相談や仏事などの質問が見うけられました。毎日、どのような質問があるか分からないなか、ご住職のご苦勞は想像以上のものだと思います。質問の回答や困った質問などありましたら、教えてください。

住：そうですね。お答えできる質問は、その場でお答えしようと思っておりますが、私の答えと質問なさる方の真意が一致しているかがどうかが一番難しいことだと思っています。事務的にお答えするのではなく、いかに質問される方に納得できる回答ができるかが私の課題です。皆さんの声を聴き、新しい本光寺の姿に成長させていくことが、今年の課題なのかもしれません。私は宗教者で皆さんよりは少しは仏教の世界を知っているとは思いますが、まだまだ修行中の身です。これからも日々精進してまいりますので、檀家の皆さんや本光寺を応援していただいている皆さん、本年もよろしく願いいたします。

記：私も精進してこれからも本光寺の事をお伝えしたいと思いますので、よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。

住：ありがとうございました。

合掌

## 本光寺の キャラクター



### ぴかりん住職

ぼっくんのいるお寺の住職。



### 木魚のぼっくん

お寺にいる木魚の化身。頭をたたいて「ぼくぼく」と鳴らしている。

皆さん。新年あけましておめでとうございます。去年はいろいろお世話になりました。本年も皆さんとともに、勉強していきたいと思います。では、いつも通り、ぴかりん住職さまをお呼びしますね。

ぴかりん住職さまあああああ・・・

住職さまああああ、え、ええ、住職さまいらっしやらないのかな。

皆さんがお待ちだと思いますので、今回は僕一人でいろいろ住職さまに教えていただいていることを皆さんにお話しをさせていただこうと思います。

・・・すごく不安だけど。



木魚のぼっくん

ぴかりん住職さまに学んだことや本光寺のことを皆さんに紹介させていただきます。

○本光寺の朝参り会・夕参り会について、住職さまと話したこと。

○「原点回帰」の住職さまの考え方。

○これからの本光寺について。

どれも、難しい話しです・・・できるかな？



朝参り会について、住職さまと話したことを思い出しながら皆さんにお話しをします。

本光寺の朝参り会は、毎朝7時より約50分間行われています。住職さまが「お経」を読んだり、「お題目」を唱えたり、皆さんの健康や世界平和をお祈りしています。現在、約1年3カ月が過ぎて、オンラインで参加されている方も日々少しずつ増えてきて、皆さんの名前を読み上げ、皆さんからのご質問や悩み事の相談の回答をしています。

夕参り会は、毎週日曜日、午後4時から行っています。

唱題行と瞑想行という修行を中心に行い、皆さんの質問等にもお応えしています。

僕のイメージだけど、朝参り会は全体的にみなさんの質問が中心で、夕参り会は悩みのご相談が多いように感じています。

住職さまは、「本光寺」のことを直接触れていただく方法がないのかなと言われていました。確かに、オンライン参拝という新しい参拝方法は、「本光寺」をより身近に感じることができる手段になっているとは思いますが、でも、お寺に直接参拝し、住職さまと遭遇して、もっと「本光寺」や「仏神様」を知っていただければと、住職さまは思っています。

コロナ禍で皆さんの参拝が少なくなっていますが、「本光寺」は、おとしより、いち早くコロナ対策を行っていましたから、今年は、ぜひ直接ご参拝していただければと思っています。

境内には、僕がいろいろなところにいるので、探してください。



「原点回帰」は、すでに本光寺では始まっています。住職さまがイスラム教の国に視察に行かれた時の経験が、考えの始まりだって聞いています。住職さまがイスラム教の教会（モスク）に行かれた時、最低限のイスラム教の服装に着替えて、モスクに入るときの作法を聞いてから、中に入ることを許されたそうです。その後、本光寺に戻ってきて、いろいろな外国の方々とお話しをされた時、「日本では宗教が日常生活の中に根付いていない」と何人もの方に言われたとのことでした。住職さまは、「本光寺」で何かできることがあるかなと思案しました。その時、「本光寺」に限らず、お寺は昔からのしきたりや作法を忘れてしまっているのではないかと気づかれたのです。モスクのまねをするわけではないけれど、「本堂」には大切な釈迦如来様をはじめ仏神様が勧請されているから、参詣者には最低限「数珠」を着用して、「本堂」に入るようにしていただくようにしたのです。

「数珠」のない方もいらっしやるので、寺務所でカラフルな「数珠」を備え、お貸しできるようになっています。

ご焼香のときも、単にご焼香をするのではなく「伏拝（ふくはい）」をしていただくようにしています。

もっと身近に「本光寺」を感じていただきたいという、住職さまの取り組みです。



これからの本光寺については、まだまだ僕では説明できないかもしれませんが、住職さまのお話として聞いてください。

住職さまの考えは、今も昔も変わりません。

本光寺は「笑って帰れるお寺」を目指しています。お寺は悲しみの場所であることは、誰もが分かっています。ただ悲しいだけではなく、葬儀・法事であれば、故人をしのびながら楽しい思い出を心に残し、故人の笑顔を思い浮かべながらお帰りいただきたいと思っています。



次に、本光寺で行われている大祭についてお話しします。

昔の大祭は、皆さんが集まっている所に僧侶が呼ばれ儀式をしていたことが伝わっています。時代が過ぎるにつき、本光寺で皆さんを集めて大祭をするようになりました。また、大祭の形も時代とともに、簡略化され、ある意味、形骸化しつつあります。今後も時勢が変わってきますが、皆さんの気持ちは変わらず、形式的ではない大祭を目指されています。



ぴかりん住職

そのとおり！！

ぼっくん、お寺の行事は皆さんの心の持ち方が一番大切なのだよ。その中で、少しでも悲しみから良き思い出になるよう私は日々精進しているのです。

ぼっくんも、これで少しは成長したのじゃないかな。

ぴかりん住職さま。いらっしゃったのですか。



ぼっくん。最初から私は聞いていたのだよ。でも、私がそのまま話していたら、ぼっくんの成長はないと思い、陰に隠れて聞いていたのだよ。まだまだ修行をしなければならいけれど、今回は一応合格点をあげるよ。

住職さま、ありがとうございます。



皆さん。本光寺は今年も少しずつ成長していきたいと思っています。私もまだまだ修行の身です。今後とも本光寺をよろしく願いいたします。

## 寺務員のひとり言

いつもご参詣ありがとうございます。

昨年中はお百度参り・縁切り破魔矢・かわらけ割り・縁結びの叶結び・子授けの塗り絵・水子供養のお地蔵様の写仏・みちびきの門などご参詣の皆様に参加していただく取り組みをいろいろ始めました。なにかと騒がしい世の中ですが、お寺にいらした時には少しでも明るいお気持ちになってお帰りいただきたいと思っています。本年もどうぞよろしく願いいたします。

寺務所 根本・松本・佐々木